

銃皇無尽のファフニール  
迷いこんだイレ  
ギュラー

Formuladrive

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

数多の次元世界が存在する中の、滅びかけの小さな世界。その名を、『惑星 エルトリア』と言う。

約40年前に起きた事件を経て、その過去の柵から解き放たれたあの事件からおよそ3年の月日が流れた。

かつて『死蝕』と言う謎の現象に蝕まれ、滅びを待つだけの筈だったこの星は今、ほんの少しずつだが回復の傾向を見せている。

事件の中心人物の7人の少女たちに加え、2年前と1年前から2人の少年少女が新たにエルトリアの復興に力を尽くしている。

これは、その2人の不幸な巻き込まれ物語である。

# 目次

唐突なる出会い	6
Prologue & 設定	1

# prologue & 設定

## —設定—

名前：シエル・ミルヒシュトラーセ

性別：男      年齢：15歳

出席番号：10番

武装：星天の魔導書

使用術式：真正<sup>エンシエント</sup>古代ベルカ

魔力ランク：SSSS+

髪色／髪型：空色／癖毛のショート

瞳の色：銀

特徴：男の娘、小柄

概要：

突如ミッドガルに落ちてきた少年。

2年前にエルトリアへ次元漂流し、フローリアン一家のお世話になっていた。

実は諸王ベルカ時代の王の一人、『星皇アストレイ』ことアストレイ・ミルヒシュト

ラーセの遺伝子から生み出された記憶転写クローン型魔導生命体の失敗作。記憶の転写に失敗した変わりに、アストレイの資質の本質である『星天の魔導書』を持つ。

『失敗作』でありつつも『成功作』でもあるが故に、様々な非道な実験を繰り返させられていたが、実験の失敗続きにより廃棄されて以降は、『星天の魔導書』の気紛れに振り回されつつ色々な場所を旅していた。

優しくて礼儀正しい性格だが、妹のような存在であるリアンにもものすごく甘い。誰かが危険な目に合っていたら、平気で自分を差し出すお人好しでもある。

自分が『星皇アストレイ』のクローンである事を自覚している為か、心の奥底では自分の事を『星皇のクローン』ではなく『シエル・ミルヒシュトラーク』と言う一人の間として見てほしいと強く望んでいる。

### 『<sup>せいてん</sup>星天の魔導書』

アストレイの魔導の本質であり、アストレイの魂そのものとも言える魔導書。現在はシエルが所持している。

その性質は『気紛れ』で、機嫌を損ねると面倒くさくなるらしい。持ち主に従順でもあるが、何故か『次元跳躍』だけは勝手に行う上、シエルにやらせない。

数多くの魔法が記されているストレージでもある。

機能は、魔法の記憶・最適化・使用・魔力貯蔵・次元跳躍・言語翻訳等様々。

名前：リアン・ミルヒシユトラーセ

性別：女

出席番号：11番

武装：希望ノ魄翼、救天の魔導書

使用術式：真正古代エンシエントベルカ

魔力ランク：EX（計測不能）

髪色／髪型：白／ロングウエーブ

瞳の色：銀

特徴：可愛い、小柄

概要：

シエルと共にミッドガルへ落ちてきた少女。

エルトリアで生まれた魔導生命体であり、母体は『星天の魔導書』。シエルがエルトリアに現れた事で、『星天の魔導書』とユーリの能力の残骸が特殊な共鳴反応を起こした事で生まれた存在。

人見知りが激しく、シエルにべつたりな甘えん坊。シエルが傍にいないと不安で仕方がなく、泣きそうになる。

見た目は12歳程だが、実際は生まれてからまだ1年と少し。現在はベルカ語とエルトリアの言葉しか喋れないが、『救天の魔導書』にある翻訳機能を使えばある程度会話出来るものの、難しい言葉はまだ分からないし、喋り方も辿々しい。

### 『<sup>ぐてん</sup>救天の魔導書』

リアンの核であり、シエルを現主とする『星天の魔導書』を元に生み出された魔導書。ユーリの能力の残骸と、星天の魔導書の共鳴によって生まれた。

その性質は『矛盾』で、ユーリの能力も使う事が出来る。

主な機能は、魔法の記憶・最適化・使用・魔力の貯蔵・言語翻訳等様々。



過去の悲劇から生み出されたあの事件から3年。

『惑星 エルトリア』では、今も『惑星再生活動』が続いている。

「しえるー！」

畑で作物の世話をしていた、空色の少年に駆け寄り飛び付いた白い少女。

「わっ！リアン、どうかしたの？」

空色の少年——『シエル・ミルヒシュトラッセ』と、白い少女——『リアン・ミルヒシュトラッセ』。あの事件後、エルトリアでの『惑星再生活動』に、新たに加わったメンバーだった。彼らにも色々々と複雑かつ特殊な事情があるのだが、それは追々話すとしよう。

「しゅてる姉がてつだってほしいってー！」

「あー、力仕事なんだね。すぐ行くよ」

「はやく行こー！」

手を引いて先導するリアンに、シエルは笑みを浮かべていた。その姿は、仲睦まじい兄妹そのものだった。

## 唐突なる出会い

『惑星 エルトリア』にある、フローリアン研究所の畑で野菜を収穫している少年——『シエル・ミルヒシュトラーク』と少女——『リアン・ミルヒシュトラーク』。仲のいい『兄妹（仮）』である。

何故（仮）なのかと言うと、2人の間に血の繋がりが無い上、複雑過ぎる事情がある為である。

「しえるー、そっちおわつたー？」

「うん、終わったよー。アマミタ<sup>アミテイエ</sup>さんやシュテル達の所に持っていこうか」

「おー！」

収穫した野菜がたくさん入った籠を持ち、他の作業をしている仲間達の所へ向かう。

シエルは2年前から、リアンは1年と少し前からエルトリアを犯している『死蝕』という星の病と凶暴生物を無くし、エルトリアを『再び人が住める星』に戻そうと力を尽くしていた。

「今日のノルマ達成ー！ さあ、何処からお手伝い回りする？」

「んー、えれのあさんのところからがいい！」

「よし、じゃあエレノアさんの所に行こうか」

今日課されたノルマを達成した2人は、次なる仕事を求めてお手伝い回りをしようとしたその時、シエルの懐から突然『星天の魔導書』が淡い光を放ちながら一人でに現れた。

「え……これって、もしかして……」

「?」

首を傾げてきよんとした様子のリアンに対して、シエルは心当たりがあるというようにな反応をしていた。

そんな2人の様子などお構い無しとでもいうように、『星天の魔導書』はページが捲られていき、とあるページで止まると2人の足元に魔法陣が現れる。

「シエル!? リアン!？」

そこに、発動した魔法を感じとったのか青髪ツインテールの少女——『レヴィ』が現れるも発動した魔法は止まらない。

「レヴィ! 僕たちは大丈夫だから皆に伝えて! 『星天の魔導書の気まぐれ』が発動して、次元跳躍で何処かに——」

「シエル!？」

伝言を伝え終える前に、シエルとリアンの2人は一筋の光となり、エルトリアから姿

を消した。

ところ変わって、エルトリアとはまた別の星。『第97管理外世界』と呼ばれる星――

『地球』

だが、アマミテイエアマミタヤシュテル達を知る魔法が存在する『地球』とはまた別の、平行世界と呼ばれる、魔法が存在しない『地球』だった。

この世界では『ドラゴン』と呼ばれるモノが存在し、それに対抗する『タイブ・ドラゴンD』』と呼ばれる子供達が存在し、戦っていた。

そしてここは、その『D』と呼ばれる子供達を集めている場所――『教育機関 ミツドガル』

ここに『D』として発現した子供達を集め、『D』としての教育を施していた。  
そんなある日の事。

ドオオオオオン!!!

ミッドガルの森の中に、何かが光速で、まるで隕石のように轟音を立てて落下した。

何事かと、落下地点に来たミッドガルの竜討伐先鋭メンバーがそこで目にしたのは

……

「……けほっ、けほっ」

大きく作られたクレーターの中心で、5つの機械的な盾のような何かに、丸いバリアを張られて守られている2人の少年と少女だった。

これが、ミッドガルの竜伐隊である『ブリュンヒルデ教室』のメンバーと、魔導生命体として生み出された『シエル』と『リアン』の2人との唐突で強烈な出会いだった。